

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295100172		
法人名	(株)権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ1F		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index=true">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年開設して1年6ヶ月、まだまだ施設としては色々な面で模索中ではありますが、先ず職員が「介護」という仕事に就いて良かった！と思える職場でありたいと思います。お互いを信頼し助け合いながら生き生きと仕事ができる環境を作っていくこと、職員が元気に活動できれば自ずと入居者様も元気になる！と思っています。入居者様に関しては、「平等・一律」の対応では無く「今出来る事を大切に」と個々に合わせた活動を心掛けグループホームが自分の安心出来る居場所になるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

“ごんべえ”とは「仲間とともに失敗を恐れず、チャレンジスピリッツを持って取組む姿勢」のあった戦国武将を由来としたもので、開設2年足らずでの浸透を職員の言動が物語っていました。特徴の一つとして、「地域とかかわりたい」想いと目前に小学校があることが相まって、事業所の入口3坪ほどを駄菓子屋として運営しています。子どもたちが気軽に立ち寄る場所として馴染み、また利用者も店頭に立ち、そのご縁から児童と将棋を指すこともあります。レクリエーション、体操、外気浴、個別外出を積極的に推進し、身体を動かしているためか平均要介護3.55にもかかわらず利用者は表情も豊かで、楽しく暮らせていることが見てとれました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」についてももう一度考えてみよう、自分達はこんな介護を目指して行きたいんだ！ということ、改めて「理念」を全職員と共に再考しました。その「理念」の下全職員が同じ方向を向いてケアにあたりたいと思う。	開設から2年未満ですが、管理者がリーダー研修に参加した刺激を以て意欲的に理念を見直しています。「簡単に明瞭な理念を」との指針をベースに職員アンケートで意見集約を図り、自らつくった自負から意識の高さも保たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議等で自治会関係・小学校他地域行事や清掃活動・お祭りのお誘い・学童クラブとの関わりを持つ機会がある。	目の前に小学校があることもあって入口3坪ほどを駄菓子屋として運営しています。子どもたちが気軽に立ち寄る場所として馴染み、また利用者も店頭に立ち、そのご縁から児童と将棋を指すこともあります。ほかにも落ち葉拾いなど外へも積極的に出向いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流を増やしながら施設の現状の説明や活動を通じて理解を広げて頂くように心がけている。施設の行事案内を回覧板で回して知って頂いたり、併設の駄菓子屋を通じて関わりが持てる場と活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の実績や活動の報告、懸案課題などの話の中で色々な意見を伺い運営に活かしている。又、地域の方やご家族代表の方の意見を伺いながら推進会議の場を情報交換の場として活用している。	開催月の前に余裕をもって日程案内を届け、行政、地域から概ね出席が叶っています。帰宅願望のある利用者が1人で戸外に出てしまった折にお世話になった交番のお巡りさんも参加くださり、家族発言を通じて「地域住民のことがわかり大変勉強になった」との感想も挙がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市内グループホーム連絡会等での連携、入居者様の事案等で相談に乗って頂いている。	焼津市主催のグループホーム連絡会は事業所同士の親交と学びの場として定着し、後進の本事業所にとっては先輩事業所に様々教えてもらえる貴重な機会となっています。会議は各事業所持ち回りですが、本事業所には広い会議室がないため市役所に貸してもらったこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本的には玄関の施錠をせず開放し、職員の対応の連携により実践している。現場にその都度「拘束」にならない様に注意喚起を十全会議等で確認もしている。改めて社内研修等で勉強をしていきたいと思う。	明るイトーンの内装と上位者の目配りでストレスが溜まる状況にありません。拘束や虐待防止の研修を年間計画に位置付けてはいたませんが会議や現場でOJTがおこなわれ、職員は「なぜしてはいけないか」については理解が薄いものの実践においては安心の対応がみられます。	一時性、代替性、切迫性に係る場合の対応方法や「なぜしてはいけないか」の理由等、知識面の学習が進むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職として職員の日頃の勤務の様子を意識し会話を持ちながら確認に努めている。又、入居者様の入浴時等身体の様子も気を配っています。今後も社内研修や外部研修を活用し勉強をしていきたいと思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者としてもまだまだ勉強不足の為、理解を深める努力をしていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用説明書等丁寧に説明をさせて頂いている。又、その都度ご家族から質問等があったらお話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族からの意見、指摘等は管理職から現場主任に問題を提起し意見交換をし職員へと連絡し意見の交換をしている。施設としてのお便りや家族会(2回実施)等で直接意見や要望を聞く機会を持つ様にしている。	家族会は2回のうち、1回はクリスマス会との併催で「苦勞していたのは自分たちだけではなかったことがわかって慰められた」との言葉も漏れ、意義のある時間を過ごすことができました。法人設立5周年を機に家族アンケートを実施し、職員の自己紹介や名札導入が検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは普段より積極的に声掛けを心掛け話す機会を持つ様にしている。面談等もやりながら日頃から相談しやすい環境を作る様心掛けている。	「あれはだめ。これはちがう」と枠を設けないように努め、職員主導のボトムアップをつくるべく態勢を整えています。また会議では居室担当制を敷いていることから全員が発言しています。「遅番と早番が重なると身体がきつい」との進言は速やかに改善しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期・下半期と各自が目標を持ちそれに向けての評価をし、会社として「キャリアパス」の導入の中で自己評価・所属長評価を行い、業務に関しての意見交換を面談で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各階の主任を中心にチームで連携をしながらも個別に合わせた指導・勉強をしている。内・外の研修を積極的に取り入れながら研修を受けた職員が会議等で発表する機会を持ち全職員にフィードバックしていく様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会等の出席や包括・福祉課主催の研修、講演会等に参加している。又、託老連の会員による勉強会や案内などにも参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話しがあった段階でご本人との面会・ご家族とのお話しを伺い生活習慣やこだわり等情報・要望を知ります。関係者にも事前の利用様子や問題点など入居してからの混乱を減らす為に情報の共有化を図り入居してからはご本人の不安を除く為にお話しを伺う様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前の話としてご本人様の事、今までの様子、ご苦労話、要望等を伺い労いと共にご本人様への家族としての思いを組み入れご本人の様子も伝え安心して頂く様にしている。又、引き続きご家族の協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話の中でご本人の不安とご家族の心配を軽減出来る様、十分に意向等確認をする様にしている。他のサービス利用はありません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとして「家庭」と言う役割の中で今までご自身がやってきた事を積極的に取り入れながら活動して他の入居者様や職員と共に家事や趣味活動を通じ助け合い、楽しんで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居後も今まで以上にご家族には関わりを心掛けて頂ける様をお願いし定期受診・外出・外泊や施設行事などにも参加をお願いしている。又入居もない時の不穏や帰宅願望なども柔軟にご家族ならではの協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への面会のある方や、入居者様が自分の馴染みの場所へ外向く事も支援している。地元で暮らす良さを大切にしていきたいと思える。	目前の小学校に通うひ孫が放課後「おじいちゃん～」と毎日通い、宿題をやって帰ってゆく光景はもはや日常に溶け込んでいます。「地域とのふれあい」を核として取組み、例えば1階では信心深い利用者の教会礼拝も続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	すでに気の合う方との関係が出来ている中で時には職員が仲立ちしながら、日中の活動を通じて共助の関わりを増やしていく様にしている。外活動や外出の機会でも仲間意識を持てる様にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院等で退所した直後は様子を見に行くだなどしている。ご家族様宛てにお伺いのハガキを出したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とゆっくり話を聞き「思い」を伺い少しでもその意向に沿える様、日々のケアに努め実現出来る様に努力している。意志の疎通が難しい方は日々の様子や表情から思いを察する様にしている。	入居時には不安や混乱を抱えていることもあり、「馴染みの場」となるようにと、利用者のペースにあわせてじっくりと傾聴しています。各自の能力の変化を見極め、例えば「〇〇さんの日めくり」と銘打って「その人の役割、をつくるのが当たり前となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報やご家族との話、入居してからは日々の話の中で情報収集を重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当職員が日々の関わりの中で様子を確認し職員に情報を共有する様にしている。申し送り等の状態確認や連絡を密にする様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が日々の生活の中で、問題点・課題を掘り下げ全体会議等で報告しあひ意見交換をしケアにあたり、その後の検証も次回に報告し確認する様にしている。ご家族と担当職員、ケアマネが同席して話を伺う機会もある。	ユニット毎に数名のチームで合議して計画書原案を作成しています。居室担当者は無論のこと、全員が現場を常にみているメンバーでの話し合いのためモニタリングが自然な形で反映されています。転倒防止や筋力維持のためのトレーニングメニューも、計画に位置付けられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りノートの活用、担当職員からの連絡等、記録物の効率的な活用を心掛けて情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや、認知症による状態の変化などもあり、その時の「思い」「出来る事」を大切にしてお伺いしている。外出やデイサービスでのクラブ活動(陶芸教室・将棋)などにも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつでも、地域との関わり、協力を頂きながら施設の中だけに留まらず、外との関わりを活動として取り入れている。又、施設としても目の前の小学校との交流を積極的に進めて行きたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ主治医がある方は継続して頂いている。只、ご家族の都合や緊急時等は施設側が柔軟な対応をしている。	かかりつけ医と協力医の半々で、家族が主に付き添いをしていきます。バイタルをはじめ日々の記録とともに気になる点も加え医師に渡し、適切な診断を仰げるように心がけています。症状が安定しない人には特別にシートが追加され、また2色刷で確認を容易にする工夫も視認しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が1日置き位の勤務の中で、健康管理や医療面での対応を行い現場職員の医療面の助言指示等も持っている。夜間等急変時に備えオンコール体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の定期的な本人の様子確認を行い病院との情報交換・報告を受け退院時も地域連携室を通じ退院カンファを持ち退院後の生活等の指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、契約時に施設側の「看取り」に関する考えを説明している。基本的にはご本人の気持ち(事前の聞き取り)ご家族・施設側の関係作りが出来、医療面の協力体制が整い成り立つ物としている。	高齢での入所ということもあり開設から1年不足で看取り実績がありました。短い期間でしたが職員には大きな財産となり、感謝の気持ちを次へつなげたいとしています。業務日誌に「ナース連絡事項」を挿入するなど健康管理に熱心なことから、今後の飛躍に期待がもたれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル対応はあるが実践的に初期対応の訓練等今後勉強して行きたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルはあります。自施設の訓練も実施をし問題点等確認した。地域の防災訓練等にも参加しているが今後は自施設の訓練等で地域の自治会、ご近所の協力を仰いで行きたいと思っている。	本年5月に初めて事業所での避難訓練をおこない、また地域の防災訓練にも出向いています。避難所が真向いの小学校という事もあり、津波想定では屋上まで移動する体験も得ることができ、自治会からは地元特有の課題について説明を受け有益でした。	年2回の防災訓練が定着していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中でその都度話をし気を付ける様に心掛けている。会社としても全体研修として外部講師を招き「接遇」をテーマに講義をうけた。	法人全体で外部講師を招いて接遇研修もおこない、事後アンケートで職員の習得率も測って現状を掴んでいます。特段ルール化したり指導してはいませんが、居室には本人に確認するか、連れだっって入ることが自然にできています。	現状問題はありませんが、今後の危惧として次のことを期待します。「自然体で接するということとプロ意識を持っておこなうということの違いやその意義について一度職員間で話し合う」。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で「思い・希望」を組み取り自己決定を尊重する様努めている。又その言葉がけにも努めている。意志教示が難しい方も寄り添う中で表情等で図る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意志、発言、行動を尊重し、その方のペースを大切にしている。活動の提案はありますが、よく話を伺い決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様によっては自己選択が難しい方もいるが女性利用者様は特に洋服の選択など声掛けて自身で選んで頂くよう心掛けている。理美容も毎月希望者は実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備等出来る方をお願いしたり、日課として米とぎや汁物の取り分け、お茶注ぎ、食器洗い等皆で分担し協力をしている。	専任者が調理しただけあってメニューは家庭的でも諸所プロの技が入り大満足の内容で、特に出汁は流石「焼津」という味わいがありました。こだわりをもって選択したテーブルは面が広く、食後には利用者が率先して食器拭きをおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・引分量・など3食をしっかり確認して食事の状態も体調に合わせて柔軟に対応している。形態も刻み・ミキサー・お粥など提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯の洗浄等も職員の声掛けや介助等によりご本人の能力に合わせた支援をし確認もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄する事を心掛けている。日中・夜間の排泄記録を取りながらリハビリやパット削減に努力している。「排泄担当」の係を作り職員と協力をし削減に向け取り組んでいる。	各フロアに3箇所あるトイレのうち、1つは介助用として車椅子が入れるスペースと跳ね上げ式の手すりが配され、自立支援のための環境が確保されています。「夜間は睡眠優先」といった決め事はもたず、一人ひとりの心身状態にあわせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ各自の排便状況を把握して排便のペースを掴んでいる。食事・水分・運動を上手に取りながら便秘解消に心掛けています。毎朝の牛乳の摂取などの工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間・曜日の設定はしていますがご本人の状態(急な便失禁など)や不眠等の対応へも取り入れている。	1階では、姉妹のように仲良くなった同士が2名で浸かることもあるほど広い浴槽を備えています。細かい気泡が出る「美泡湯」、は、肌の弱い利用者にも美容と健康に良いと定評があります。希望があれば毎日でも可能ですが、清潔保持の目安は週3日です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体的状況・体調等も考慮して休息等の時間を作っている。日中外気浴等積極的に取り入れ夜間の入眠がスムーズになる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬にかんしては、看護師が中心となり管理しているが、個々の薬棚があり、薬の情報等も確認できている。看護師からの申し送り記入欄等の活用もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に担当職員がご本人の希望や要望を聞き外出支援等、気分転換も兼ねて出かける機会を作っている。喫茶店に行ったり図書館・本屋・パン屋などにも出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中での買い物やドライブ等で四季の花を見に行ったりしているが、今後はご家族も交えての遠足や会食等なども楽しんでいきたいとおもっている。個々のゆかりの地を訪ねたりと計画してみたいとも思っている。	小さな外出レクでも1回毎にレクリエーション計画書が提出され、目標にもとづいた意義ある外出がおこなわれています。また当日思い立ってのドライブでは、港湾から富士山を眺めるのが定番です。外出や外気浴は日常的に随時あり、玄関口では賑わいと笑い声がこぼれています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭管理は難しくご家族了承の下、出納長管理とさせて頂きご本人様が活動で使えるお金を施設側が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りを出す機会(暑中見舞いや年賀状等)を持ちご本人に書いてもらいつつ、担当職員が最近の様子などの一言を添えて出している。電話は希望があったり、本人が不穏時や帰宅願望が強い時に家人にかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる様子を玄関やテラスに植えたりこの夏は花壇を作り、夏野菜を皆で育て食事で頂いたりした。	外観も洒落た一般住宅という印象ですが、なかも木の風合いを取入れ “ごく普通” を上手に演出しています。1階にはウッドデッキ風のテラスがあり、テーブルセットとプランターの花々が憩いの空間を醸成し、鉢植えは利用者と一緒に手入れしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでくつろいだり、玄関のベンチで休んだり、自身の居室で休まれたりと思いきいの好きな所でゆっくり過ごして頂いている。テラスでお茶を飲みながらお話しを楽しまれる時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に関して、「ご自身の自宅の部屋を再現して下さい。」とご案内し馴染みの家具や身の回りの大切な物は持ち込み自由としている。グループホームが安心して過ごして頂ける様、居場所に馴染める様に自由に使って頂いている。	編物講師からアニマルが毛糸制作で贈られ、各居室前に目印のように下がっています。それらとともに扉横に掲示されたアクティビティ作品も “わが家” と解るものとして機能しています。照明も持ち込みをお願いしていて、その人らしさが際立ち、昭和の家が回想される部屋もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認識症の状態にもより異食等や不穏の原因になりそうな物などは置かない様にしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295100172		
法人名	(株)権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ2F		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_topjigyosyo](http://kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_pref_topjigyosyo)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年開設して1年6ヶ月、まだまだ施設としては色々な面で模索中ではありますが、先ず職員が「介護」という仕事に就いて良かった！と思える職場でありたいと思います。お互いを信頼し助け合いながら生き生きと仕事ができる環境を作っていくこと、職員が元気に活動できれば自ずと入居者様も元気になる！と思っています。入居者様に関しては、「平等・一律」の対応では無く「今出来る事を大切に」と個々に合わせた活動を心掛けグループホームが自分の安心出来る居場所になるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

“ごんべえ”とは「仲間とともに失敗を恐れず、チャレンジスピリッツを持って取組む姿勢」のあった戦国武将を由来としたもので、開設2年足らずでの浸透を職員の言動が物語っていました。特徴の一つとして、「地域とかかわりたい」想いと目前に小学校があることが相まって、事業所の入口3坪ほどを駄菓子屋として運営しています。子どもたちが気軽に立ち寄る場所として馴染み、また利用者も店頭に立ち、そのご縁から児童と将棋を指すこともあります。レクリエーション、体操、外気浴、個別外出を積極的に推進し、身体を動かしているためか平均要介護3.55にもかかわらず利用者は表情も豊かで、楽しく暮らせていることが見てとれました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」についてももう一度考えてみよう、自分達はこんな介護を目指して行きたいんだ！ということ、改めて「理念」を全職員と共に再考しました。その「理念」の下全職員が同じ方向を向いてケアにあたりたいと思う。	開設から2年未満ですが、管理者がリーダー研修に参加した刺激を以て意欲的に理念を見直しています。「簡単に明瞭な理念を」との指針をベースに職員アンケートで意見集約を図り、自らつくった自負から意識の高さも保たれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で自治会関係・小学校他地域行事や清掃活動・お祭りのお誘い・学童クラブとの関わりを持つ機会がある。	目の前に小学校があることもあって入口3坪ほどを駄菓子屋として運営しています。子どもたちが気軽に立ち寄る場所として馴染み、また利用者も店頭に立ち、そのご縁から児童と将棋を指すこともあります。ほかにも落ち葉拾いなど外へも積極的に出向いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流を増やしながら施設の現状の説明や活動を通じて理解を広げて頂くように心がけている。施設の行事案内を回覧板で回して知って頂いたり、併設の駄菓子屋を通じて関わりが持てる場と活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の実績や活動の報告、懸案課題などの話の中で色々な意見を伺い運営に活かしている。又、地域の方やご家族代表の方の意見を伺いながら推進会議の場を情報交換の場として活用している。	開催月の前に余裕をもって日程案内を届け、行政、地域から概ね出席が叶っています。帰宅願望のある利用者が1人で戸外に出てしまった折にお世話になった交番のお巡りさんも参加くださり、家族発言を通じて「地域住民のことがわかり大変勉強になった」との感想も挙がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市内グループホーム連絡会等での連携、入居者様の事案等で相談に乗って頂いている。	焼津市主催のグループホーム連絡会は事業所同士の親交と学びの場として定着し、後進の本事業所にとっては先輩事業所に様々教えてもらえる貴重な機会となっています。会議は各事業所持ち回りですが、本事業所には広い会議室がないため市役所に貸してもらったこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本的には玄関の施錠をせず解放職員の対応の連携により実践している。現場にその都度「拘束」にならない様に注意喚起をし全会議等で確認もしている。改めて社内研修等で勉強をしていきたいと思う。	明るイトーンの内装と上位者の目配りでストレスが溜まる状況にありません。拘束や虐待防止の研修を年間計画に位置付けてはいたませんが会議や現場でOJTがおこなわれ、職員は「なぜしてはいけないか」については理解が薄いものの実践においては安心の対応がみられます。	一時性、代替性、切迫性に係る場合の対応方法や「なぜしてはいけないか」の理由等、知識面の学習が進むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職として職員の日頃の勤務の様子を意識し会話を持ちながら確認に努めている。又、入居者様の入浴時等身体の様子も気を配っています。今後も社内研修や外部研修を活用し勉強をしていきたいと思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者としてもまだまだ勉強不足の為、理解を深める努力をしていきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用説明書等丁寧に説明をさせて頂いている。又、その都度ご家族から質問等があったらお話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族からの意見、指摘等は管理職から現場主任に問題を提起し意見交換をし職員へと連絡し意見の交換をしている。施設としてのお便りや家族会(2回実施)等で直接意見や要望を聞く機会を持つ様にしている。	家族会は2回のうち、1回はクリスマス会との併催で「苦勞していたのは自分たちだけではなかったことがわかって慰められた」との言葉も漏れ、意義のある時間を過ごすことができました。法人設立5周年を機に家族アンケートを実施し、職員の自己紹介や名札導入が検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは普段より積極的に声掛けを心掛け話す機会を持つ様にしている。面談等もやりながら日頃から相談しやすい環境を作る様心掛けている。	「あれはだめ。これはちがう」と枠を設けないように努め、職員主導のボトムアップをつくるべく態勢を整えています。また会議では居室担当制を敷いていることから全員が発言しています。「遅番と早番が重なると身体がきつい」との進言は速やかに改善しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期・下半期と各自が目標を持ちそれに向けての評価をし、会社として「キャリアパス」の導入の中で自己評価・所属長評価を行い、業務に関しての意見交換を面談で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各階の主任を中心にチームで連携をしながらも個別に合わせた指導・勉強をしている。内・外の研修を積極的に取り入れながら研修を受けた職員が会議等で発表する機会を持ち全職員にフィードバックしていく様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会等の出席や包括・福祉課主催の研修、講演会等に参加している。又、託老連の会員による勉強会や案内などにも参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人が困っている事や入所する事に対し不安に感じている思いを汲み取り、少しでも不安が軽減出来る様に努めている。また家族からも本人の情報を聞き好きな事、習慣になっている事を取り入れ第二の家として気兼ねなく暮らして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った経緯を伺い家族の思いを受容している。また、入所後本人が生活をするうえで大切な事や意向を確認している。入所したら「終わり」ではなく家族関係が気薄にならないよう働きかけしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人、家族が不安に思っている部分に重点を置きサービスを導入するようにしているが他サービスを利用した事は現時点ではなし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が気を使わず家族の様に自然体で接してもらえる様に制服はなく普段着を来て介護している。各利用者が家事分担や役割を持ち職員と一緒に作業しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各介護計画の中に家族との関わりが持てる様なプランを盛り込んでいる。面会時間、外出、外泊の時間の制限をせず常に解放し自由に関われる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方にも、気軽に来て頂けるように、面会時間の制限はしていない。馴染みのあった方の面会や前職場の方が面会に来たり、職場に会いに行くような計画も立てている。	目今の小学校に通うひ孫が放課後「おじいちゃん～」と毎日の通い、宿題をやって帰ってゆく光景はもはや日常に溶け込んでいます。「地域とのふれあい」を核として取組み、例えば2階では以前の勤務先探訪が叶っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力して、家事や掃除をする場を持っている。定期的に外出し楽しみを共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談して頂けるよう日常からご家族様と関わりを持ち信頼関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の「その時」の気持ちを大切にしたいと考えている。全てではないが少しずつ実現できるようにしている。本人の希望や思いが叶えられる様に、担当職員を中心に生活の計画を立てている。	入居時には不安や混乱を抱えていることもあり、「馴染みの場」となるようにと、利用者のペースにあわせてじっくりと傾聴しています。各自の能力の変化を見極め、例えば「〇〇さんの日めくり」と銘打って「その人の役割、をつくるのが当たり前となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話や家族からの話、生活歴の情報から習慣になっている事や馴染みの物、好きな事を生活の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成者、担当職員を中心に本人の希望や得意な事を把握し一日の中で役割や仕事を持って頂いている。日常で変化があった場合は業務日誌等で報告し全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で全利用者の情報を職員全員で共有し意見交換をしている。そこで出た意見を現場で実践し、次回の会議で再度意見交換している。家族には面会時状態を報告し意見を伺っている。	施設計画とグループホーム計画書を其々作成していて、本件への真摯さが現れます。また2つの視点を以て、利用者が「水やり」「店番」の役割を担うことも記載されています。2階では個々の目標と内容を一覧化し、職員が実行しやすいよう工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼、終礼時の申し送り、個別記録と業務日誌を活用し日々の情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちや思いを大切にする為に出る限りその場でニーズの実現が出来る様にと考えている。外出や買い物などの希望時も「その時」に叶えられるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の取り組みとして、利用者を外へという活動を増やしている。施設内で生活するのではなく、地域資源を活用し地域と自然に関わりながら健康で楽しく暮らして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人のかかりつけ医に入所後も通院している。但し家族対応の通院が困難な場合や急な体調不良時は嘱託医を紹介している。	かかりつけ医と協力医の半々で、家族が主に付き添いをしていきます。バイタルをはじめ日々の記録とともに気になる点も加え医師に渡し、適切な診断を仰げるように心がけています。症状が安定しない人には特別にシートが追加され、また2色刷で確認を容易にする工夫も視認しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ2日に1回出勤し利用者の状態把握をしている。その中で気づいた点や注意点は朝礼、看護師の業務日誌記入欄に記載している。夜間もオンコール体制が整っている為、24H対応可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時や急変時は職員が付き添い、その状況を説明している。入院時には定期的に面会に行き看護師等に状態を伺っている。地域連携室との連携も取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族との信頼関係が築け、希望された場合はターミナルの説明をさせて頂いている。	高齢での入所ということもあり開設から1年足らずで看取り実績がありました。短い期間でしたが職員には大きな財産となり、感謝の気持ちを次へつなげたいとしています。業務日誌に「ナース連絡事項」を挿入するなど健康管理に熱心なことから、今後の飛躍に期待がもたれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、それに沿って対応する事となっている。応急処置や初期対応の訓練は今後研修で実施していく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがあり、それに沿って対応する事となっている。半年に一度避難訓練を実施し可能な利用者のみ地域の訓練にも参加している。また、運営推進会議を通し災害時の応援要請の依頼をさせて頂いた。	本年5月に初めて事業所での避難訓練をおこない、また地域の防災訓練にも出向いています。避難所が真向いの小学校という事もあり、津波想定では屋上まで移動する体験も得ることができ、自治会からは地元特有の課題について説明を受け有益でした。	年2回の防災訓練が定着していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修で接遇を学び、自尊心やプライバシーに気をつけて声掛けしているが、利用者個々に合った関わり方や声掛けについても勉強している。	法人全体で外部講師を招いて接遇研修もおこない、事後アンケートで職員の習得率も測って現状を掴んでいます。特段ルール化したり指導してはいませんが、居室には本人に確認するか、連れだつて入ることが自然にできています。	現状問題はありませんが、今後の危惧として次のことを期待します。「自然体で接するということとプロ意識を持っておこなうということの違いやその意義について一度職員間で話し合う」。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が関わりの中で希望や思いを汲み取るように努力している。介助前は声掛けをし本人への確認を必ずしている。自己表現が難しい方は表情等で希望を読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で意思表示、決定が出来る方は本人のペースで過ごして頂いている。自己決定が難しい方には計画作成者や担当職員を中心に一日の過ごし方を計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後等にくしを渡し自分でとくして頂いている。毎月美容師が訪問してくれ、希望があった方はカットをしている。服にこだわりがある方は入浴時の服を職員と一緒に仕度をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付け等出来る事を行っている。昼食時は検食簿を付け利用者の意見や食べ残しの量を確認している。又外食等も取り入れている。	専任者が調理しただけあつてメニューは家庭的でも諸所プロの技が入り大満足の内容で、特に出汁は流石「焼津」という味わいがありました。こだわりをもって選択したテーブルは面が広く、食後には利用者が率先して食器拭きをおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル記録表にて、食事量、水分量のチェックを毎日実施し量の調整も行っている。自力で食べて頂く工夫や声掛けを考えながら実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、義歯や歯の状態や口腔内の残渣物の確認を実施している。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。脱リハパンという目標を掲げ実施している。	2階は“脱リハパン”を目標に掲げたことで職員意識に変化もあり、利用者の状態も向上しています。「夜間は睡眠優先」といった決め事はもたず、一人ひとりの心身状態にあわせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬で調整している方はいるが、毎朝牛乳を飲み運動する事を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日と時間帯は決めさせて頂いているが、本人の希望があった場合は入浴日以外でも入浴して頂いている。	2階の浴室は1階と比べると小さめですが、一定の自立度があれば他の利用者に気兼ねすることなく落ち着いて入浴できる事が特長です。希望があれば毎日でも可能ですが、清潔保持の目安は週3日です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人夕食後テレビを観ながらゆっくりする時間を作っている。本人より訴えがあった方から就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬保管場所があり、薬情報も一緒に入れてあり確認できるようになっている。又、薬の変更があった場合は、医師の指示内容と共に薬の情報も業務日誌に記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の習慣や好きな事を生活の中に取り入れている。担当職員が外出の計画をし定期的に気分転換の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は「その時」の気持ちを大切に実現する様に整備している。今後は家族も交え遠出や旅行等も計画していきたい。	小さな外出レクでも1回毎にレクリエーション計画書が提出され、目標にもとづいた意義ある外出がおこなわれています。また当日思い立ってのドライブでは、港湾から富士山を眺めるのが定番です。外出や外気浴は日常的に随時あり、玄関口では賑わいと笑い声がこぼれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預らせてもらっている方は、本人の希望があった場合使える様にしている。その他の方は家族に依頼をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に面会に来られる家族が多いため、電話や手紙でのやり取りは少ないが、本人の希望があった場合は尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物など季節に沿った物を利用者と作成している。トイレ前にのれんを掛け、不快感の内容に配慮している。家庭的な温かい環境作りを意識している。	外観も洒落た一般住宅という印象ですが、なかも木の風合いを取入れ「ごく普通」を上手に演出しています。2階までの階段は手すりがかみやすいよう敢えて凸凹をつくっていて、一段あたりの高さも低く上りやすい設計です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやソファで利用者同士談話をしながらゆっくり過ごされている姿が日常の中で見られている。居室でのんびりしている方もおり独りの時間も大切にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使っていた家具や馴染みの物等持ち込んで頂き、自宅に近い環境の中で本人が安心して生活して頂けるようにしている。	編物講師からアニマルが毛糸制作で贈られ、各居室前に目印のように下がっています。それらとともに扉横に掲示されたアクティビティ作品も「わが家」と解るものとして機能しています。照明も持ち込みをお願いしていて、その人らしさが際立ち、昭和の家が回想される部屋もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は全面バリアフリーとし、洗面所の蛇口もあえて今まで使ってきたようなノズルを回すタイプの物も取り付けている。廊下や階段の手摺りも持ちやすい物になっている。		